

幼 児 体 育 の 研 究

——うんどう会——

福 原 麻 子

A Study of Physical Education for Young Children

——The Day of School Sports——

Asako FUKUHARA

運動会的要素を持った最古のものは、古代オリンピックであると考えられている。日本の運動会の歴史は70～80年、運動文化の一つとしてはぐくまれてきた。春に秋によき季節がやってくると、全国のいたるところで開かれる運動会はほんとうにすばらしいものです。運動会シーズンになりますと、あちこちの広場や道路で幼児がかけっこしている姿が見られます。かけっこすることは、エネルギーの発散と同時に、走る楽しさを味わい、しかも勝敗に対する意識がはっきりしてきたという現われです。われわれ、おとなも運動会の楽しさを味わい経験しました。秋晴れのすばらしい日に、多くの観客の前で団体遊戯や競技を競った日々が、いつの時代になっても楽しい思い出として残っているものです。

目 的

57年4月本学幼児教育学科が開設されて5年目になります。現場で行なわれる行事の一つ「うんどう会」を、幼児体育の一環として出発した。学生の手で計画され、学生自身が年長、年中、年少と園児となり、演技に準じ、園長役、開会宣言、幼児体操とはじまり、時には父母にもなり、テント張りとは、うんどう会の計画準備に励んでくれる毎年の行事となった。「うんどう会」も5回目を迎えた今日、マンネリ化しやすい状況のなかで、現場と接触の少ない学生に、現場の「うんどう会」を把握する上で、現在幼稚園に勤務している卒業生を対象に、今年のうんどう会の終った頃を見計ってお願いした。

方 法

調査対象 幼稚園勤務の卒業生（1期生～3期生）37園（広島市内及び東広島市内、岩国市内）

調査期間 昭和61年11月1日～11月20日に質問式アンケートで調査用式には、Part 1では、現場の実施状況について、Part 2では、現場の技術面をお願いした。内容は下記の要領で実施した。

うんどう会について Part 1

今秋貴園で行なわれましたうんどう会の内容についてお伺いします。該当するものに記入又は○印をして下さい。

- 1 うんどう会の日程 月 日 曜日
- 2 うんどう会の会場
 1. 園庭 2. 小学校の運動場 3. 公園 4. 広場 5. 公共施設 6. 体育館 7. その他
- 3 開会時間～閉会時間 時 分～時 分 約 時間（正味）
- 4 準備体操に使われた体操名
- 5 グループづくり
 1. クラス別対抗 2. 各色帽子でクラスを（1. $\frac{1}{4}$ 2. $\frac{1}{3}$ 3. $\frac{1}{2}$ ） 3. その他
- 6 団体競技では
 1. 綱引き 2. 棒引き 3. 鈴割り 4. 帽子とり 5. 紅白玉入れ 6. その他
- 7 演技
 1. 組立体操 2. ゆうぎ 3. 鼓笛ドリル 4. 手具体操 5. フォーク・ダンス 6. 民謡踊り 7. その他

8 ゆうぎについて

1. 園児が表現リズムをする
2. 例年同じゆうぎ
3. 保育者が創作したもの
4. 保育者が研修会などで受けたゆうぎ

うんどう会について Part 2

- 1 うんどう会の練習期間に何ヶ月か、何週間、費やしましたか。

() ヶ月 () 週間 ()

日

- 2 貴園でのうんどう会はマンネリ化しているとの声が聞かれましたか。

は い い い え

- 3 貴園のうんどう会は幼稚園にしては高度な技術を取り入れてやっている。

は い い い え

(例えばどんな技術ですか。)

- 4 父親、母親にも参加して走ってもらいましたか。

は い い い え

- 5 親子で行った競技は

1. 親子リレー 2. 親子でおどる

3. その他

- 6 プログラム種目は何種目でしたか。

10種目 11種目 12種目 13種目 14種目 15種目 16種目 17種目 18種目 19種目 20種目 21種目

- 7 貴園でのうんどう会とは

1. 運動会のためにのみ競技、演技を教えて練習をした。
2. 平素園でやっている幼児体育をそのままうんどう会でした。
3. 幼児体育のなかに、うんどう会の目標をもって半年かけてした。
4. 幼児体育のなかに、うんどう会の目標をもって一年かけてした。
5. その他

以 上

結果及び考察 Part 1

うんどう会を行なうにあたり、現場ではだいたい地元の小学校の運動会と重ならないよう行なわれているのが普通である。父母の休日は勿論のこと雨天を考えての予備日等も大切なことになる。

図1をみると、10月10日(金)の体育の日が24%と一番多く行なわれている。9月21日(火)、23日の順である。本年は21日に雨天となり23日に順延した園もあり、所によっては雨天の様子をみて行なわれたようである。全体的に祝日に行なわれている。

会場は図2のように、小学校の運動場を利用している園が65%と多く、園庭の広い園では、27%が自園を会場としている。2.7%が公園、公共施設、その他では直営のグラウンドとなっている。

開会時間の図3をみると、午前8時30分に始まり、10時頃までに開会し、閉会は午前11時30分のところか

図1 うんどう会の日程

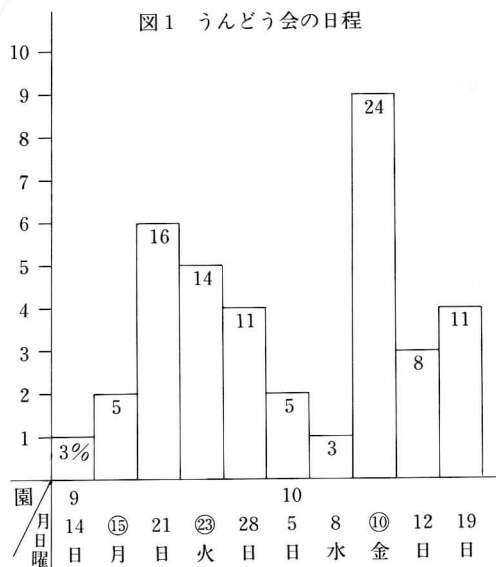


図2 会場

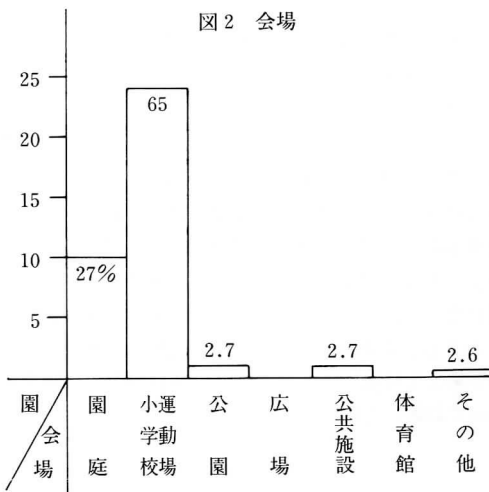
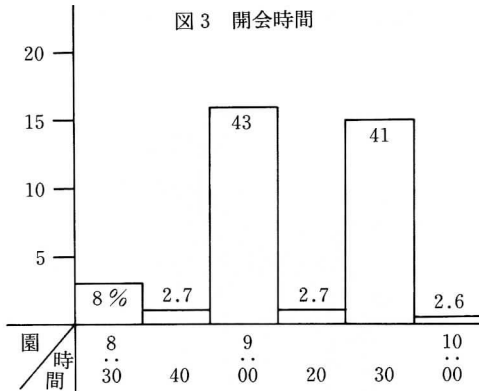


図3 開会時間



ら、午後4時までとなっている。開会については、地域にもよるが43%が9時、41%が9時30分、早いところで8%の8時30分となる。

閉会では、午前11時30分から午後4時まで、図4の午後3時の24%、12時30分の19%である。多くの園では、午後3時にあげている。

図5の正味時間数は、午前、午後通して正味2時間～6時間30分行なわれている。3時間が27%、続いて5時間の24%である。

準備体操は、競技に入る前の準備運動に使われる幼児体操には幼児体操の代表、ハトポッポ体操が10園行なわれている。父母も競技に参加する関係上、準備体操にラジオ体操も使われている。各園独自の体操が行なわれていることが伺われる。

グループづくりについては、全園児の人数にも各異なる関係上か、各園ともクラス別対抗の57%、その他の24%、クラスが19%であり、クラス対抗別にグループづくりされている園が半数以上といえる。

図4 閉会時間

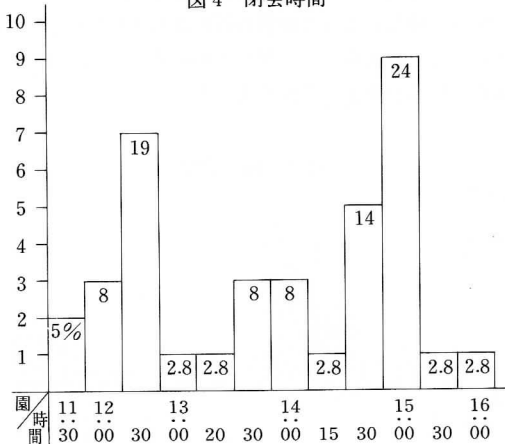
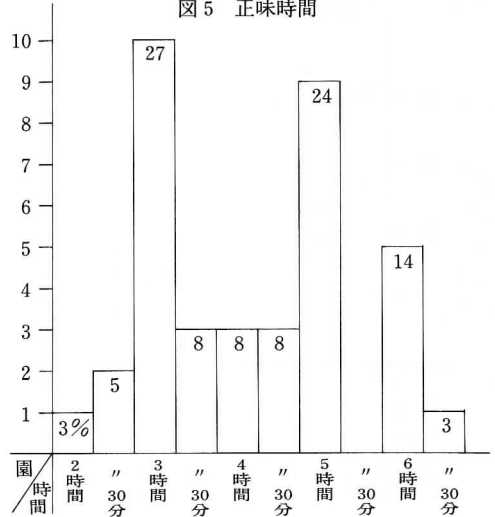


図5 正味時間



団体競技では、複数回答で紅白玉入れに人気が高い、紅白玉入れを1人2個父母に作ってきてもらうこともあって団体競技として最適である。又単時間で多くの人が競技できる綱引きにもかならずと云ってよいほど、出し物の一つとして人気がある。その他には籠を背負って入れる玉入競技、だるま落しも、やはり紅白の玉を投げてだるまを落す競技、風船あつめ、ハリケーン等、図8に示す通りである。

演技では複数回答であるが、平素の保育授業内容が発表される形になるので、保育者もうんどう会の日をめざして園児と共に練習の日を重ねるのであるが、その結果、父母はじめ多くの観客に感動をあたえる場で

図6 準備体操

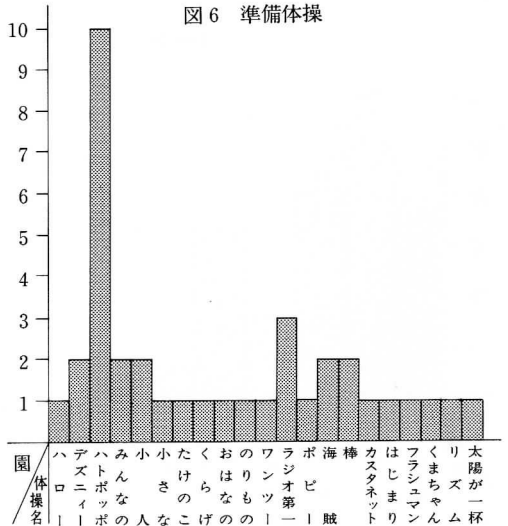


図7 グループづくり

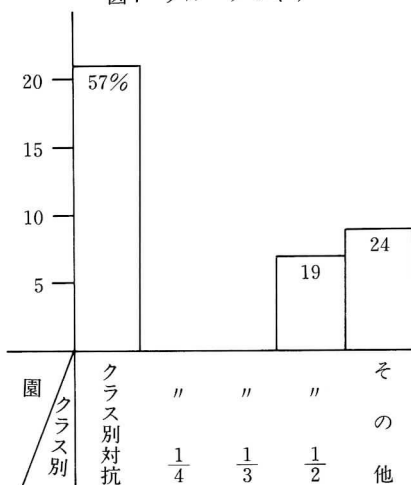


図8 団体競技 (複数回答)

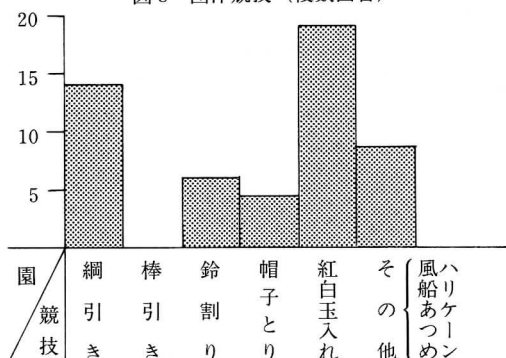


図9 演技 (複数回答)

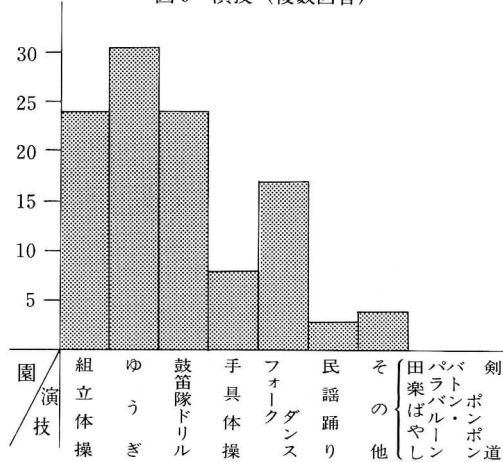
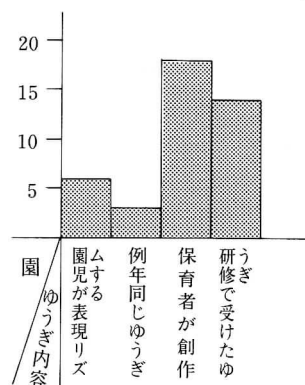


図10 ゆうぎについて (複数回答)



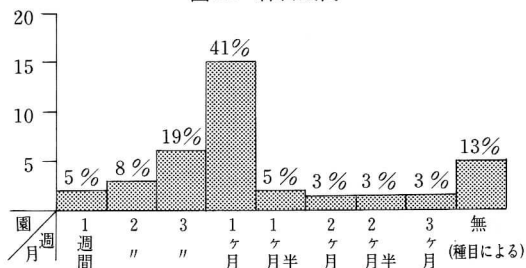
もある。ゆうぎ、組立体操、鼓笛隊ドリルの順である。各園とも、演技には、年長、年中、年少によって幅広く多種目にまたがっている。図9の示す通りである。

ゆうぎについては、図10が示す通り各園でのゆうぎ作品の受け入れを伺ってみた。複数回答であるが、保育者が園児に適した音楽を選曲し、動きを考えて創作してやったが園が18園、専門家が保育者に代って創作された作品を教えるのが14園、園児が表現活動したのをそのままうんどう会に発表した6園、例年同じゆうぎを行なっている3園である。以上がうんどう会Part 1の結果考察である。

Part 2

練習期間については、年少、年中、年長によって練習時間がそれぞれ違って来るようだ。或いは出し物の内容にもよるであろう。例えば、演技としての見せ場、鼓笛隊等は3ヶ月～半年以上は練習に要するであろう。表11によると、1ヶ月が41%、3週間が19%に、無の13%は、種目によって練習日程がまちまちに行なったと云うことである。プログラムが決められた段階から練習日程等が決まって行くようだ。

図11 練習期間

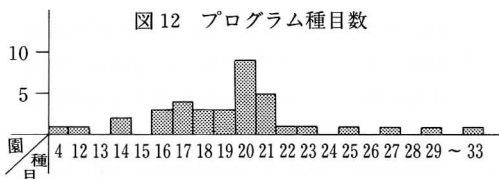


運動会のマンネリ化については、「いいえ」が33園、「はい」の4園である。毎年新しいプログラムを考えようとする努力も大変であろう。89%の園が努力しているのが伺える。

幼稚園にしては高度な技術を取り入れてやっているのでは、「はい」が11園、「いいえ」の22園、無回答4園である。幼稚園のうんどう会は小学校の縮小版であってほしくないし、外部の人達によいところをみせる場であってもいけないし、経営を中心としたうんどう会はさなければならぬであろう。59%の園が無理のないうんどう会をしていると云えるであろう。

父母も参加して走ってもらった園は、35園と、ほとんどの園で参加してもらっている。子ども達のよい思い出になり、家族関係を十分味わえることであろう。

親子で行なった競技では、複数回答で親子で踊るが27園、親子リレーが19園、その他15園と各園とも楽しい競技が展開されている。父親や母親が走るリレーは、とくに子ども達の応援は絶大である。



プログラム種目は何種目であるかでは、20種目の園が9園、つづいて、21種目が5園、17種目の4園の順であるが、園の規模によって、種目が多く組まれたり少なくなるのであろう。又4種目の園は小学校と合同で行なわれるため、出場が限られてくると云うことである。

最後に貴園でのうんどう会を行なうにあたり、その指導方針を伺ってみた。

1. うんどう会のために練習をする。…………… 27園
2. 体育遊びを取り入れてその成果をうんどう会という形で行なっている。…………… 15園
3. 半年かけて行なっている。…………… 9園
4. 1年かけて行なっている。…………… 1園
5. その他…………… 1園

1と2では複数回答の園が14園である。以上 Part 2 の結果考察である。

まとめ Part 1

日本の気候、風土からみて、暖くなる春、寒くな

る秋にからだを鍛えておこうとする習慣で運動会が行なわれてきている。37園ともうんどう会の日程は秋の季節に行なわれ、会場も小学校の運動場が利用され、自園の園庭も多く行なわれている。うんどう会は大きな動きと伸び伸びとできる会場で行なうのが望ましいことである。

開会時間は9時又は9時30分に、閉会は午前中で終わるところもあれば、15時までにはいたい終っている。15時過ぎると、子どものからだの面、心の面での疲労が出るのではないと思われる。正味時間で6時間30分は、プログラムが多すぎたのであろうか、うんどう会の最中に子どもが寝ころんでいたり、他の遊びをしたり、ケガ人が出てくる要素になりかねない、幼児の疲労状態から考えると、3～4時間が適当と云えるのではないだろうか。

準備体操にハトポッポ体操が幼児体操として最も好まれているようだ、各園独自で子どもの動きやすいテーマでおこなわれているのが伺える。

勝敗となる競技は、グループ・チームが編成されるのが通常である。グループづくりには全園児の人数によって編成されているようだ。

団体競技では運動会出し物の代表である紅白玉入れ、綱引きが、やはり単時間で多くの人に参加出来て楽しめるところに人気の秘密のようだ。

演技ではとくに音楽リズムの領域の鼓笛隊パレードが、うんどう会の場を生かして発表していることだ。

ゆうぎでは、うんどう会の代名詞、保育者が一番力を入れるのである。6園の園では、園児が表現活動をそのまま作品として発表されることは、保育者にとっても園児にとっても感動も大きく、教育的にも評価されたい。例年同じゆうぎをしている場合も、年中が年長のゆうぎをみて、来年は自分も年長になったら、同じゆうぎが出来ると云う気持ちを持たせる。戦前の運動会も、いつも低学年は高学年の動きをみて、次年の希望を持たせた、毎年同じゆうぎを行なう園では一つの歴史があるように思えた。

Part 2

練習期間は、1ヶ月の期間を集中的にうんどう会のために力を入れて練習をされていることである。

運動会のマンネリ化は、どこの幼稚園のうんどう会も長い歴史の上になつて行なわれている。各園とも毎年新しいプログラムの上で努力されていることだ。

高度な技術では、運動能力を高めるのにうんどう会

はよいチャンスでもある。瞬発力を養うにあたり、とび箱などトレーニングの効果は大きく現われるであろう。

父親、母親参加の競技では、父親、母親とも、いまだ若さを発揮し、エネルギーを発散したい人達の集まりでもあり、親子ぐるみの楽しい一日のレクリエーションの日として、うんどう会の参加は最適である。

親子で行なった競技では、「見るうんどう会」が、「参加する運動会」になり、園と父母、親と子の交流の日としてやはりふさわしい一日となっている。

プログラム種目では、15～16種目が適当とされているが、プログラム内容によって長くも感じ、短くも感じますが、20種目以上は、正味時間で述べた通り考えるべきではないかと思われる。

貴園でのうんどう会では、うんどう会の日をめざし

て半年あるいは平素より体育あそびに力を入れて、保育者は懸命に取り組んでいることだ。うんどう会は成長の過程の段階でよい経験、よいトレーニングの場となっている。各園それぞれうんどう会の日まで、演技内容からはじまり、プログラム作成に続いて、用具作りと毎日遅くまで残って子どものために準備される。こうした保育者の陰の仕事は大変であると云うことである。幼児教育学科学生も、父母になり保育者にもなり、園児にもなりきって演技することは大事な役目であることを確認することが出来た。体育あそびの重要性をさらに大きく前進させることで今後の幼児体育に一層力を入れて行きたい。

引用参考文献

水谷英三 新しい運動会 ひかりのくに 1980.

Summary

The department of early childhood education at our school was started in April in 1981 and also the day of school sports started in the same year. Since then, the day of school sports has been continued as an annual school event for the students of the department until today. This event has been considered as a part of physical education for young children, and all planned and prepared by the students of that department.

This study shows the result of a survey which was conducted with cooperation of our graduates who were working at kindergartens. The main purpose of the survey was to help the student in this field, who don't have much practical experiences, in understanding the necessary things for the day of school sports.